ふじ・あしたかの自然への招待 ⑳

丸火自然公園のようす

植物

種類と特徴

丸火自然公園は、コナラを代表種とする二次林ですがもともとは、この地域が暖帯にはいっていることから、カシ、ヤブツバキなどの照葉樹林（しょうようじゅりん）になっていたと思われます。

しかし、ここでは、炭焼（すみやき）や、まきの原料として木が切り倒されたため、森林の移り変わりが途中で止められ、夏緑広葉樹（かりょくこうようじゅ）であるコナラの二次林となってしまったのです。

コナラは、陽樹（ようじゅ）と呼ばれて、明るい所で発芽して育つのに対し、ヤブツバキは、陰樹（いんじゅ）と呼ばれて、暗い林のなかで発芽して育つという、まったくちがった特徴をもっています。

そのため、丸火自然公園のように、木が切り倒され、林のなかが明るくなると、コナラなどの陽樹が育つわけです。

夏緑広葉樹（かりょくこうようじゅ）……落葉広葉樹（らくようこうようじゅ）ともいいます。冬になると落葉する木で、ブナ、カエデ、コナラ、クヌギなどがあります。富士山ろくの標高800㍍以上の地域は、ブナで代表される夏緑広葉樹林帯ですが、現在は植林が進み、わずかしか残されていません。

照葉樹（しょうようじゅ）……常緑広葉樹（じょうりょく）ともいいます。葉が厚く、光沢（こうたく）があるので照葉樹といいますが、その仲間には、カシ、ツバキ、タブ、シイなどがあります。富士山ろくの標高800㍍以下の地域では、もとは照葉樹林が続いていただろうと考えられます。

豊富な植物

公園内の大部分は、溶岩でおおわれているために、乾燥（かんそう）しやすいので、植物の生育はよく調べて見ると、小さな谷があったり、古い地質の所があったりしてたいへん複雑になっているので、意外に種類が豊富です。

現在までの調査では、カンアオイ、数種類のスミレ、キンラン、ミヤマウズラ、オオバノトンボソウ、エビネクモキリソウなど、450種余りの高等植物（種子植物やシダ植物）があることがわかりました。

森林の移り変わり

耕作停止畑	1年目	4年目	15年目	80年目
	ヒメムカシヨモギ アレチノギク群落	ススキ アズマネザサ群落	クヌギ コナラ林（落葉樹）	シラカシ林（常緑樹）

毒（どく）のある植物

ドクウツギ……猛毒（もうどく）を持っている植物です。実や葉、枝をたべると死んでしまいます。公園の周辺部にはえていて、ウツギの葉に似ていますが、葉には毛がなく、やや光沢があって、葉は枝に向かい合ってついています。花は早春のころ、葉がでる前に咲き、秋に赤い実をつけます。

ヤマトリカブト……この植物は、花や葉などすべて有毒ですが、特に太い根には猛毒があります。公園内では池の東南の湿った所にはえていて、秋に濃いムラサキ色の花が咲きます。

また、この植物は漢方薬（かんぽうやく）として有名ですが、使い方がむずかしく、分量をまちがえると、たいへん危険です。

ムカゴイラクサ……ドクウツギ、ヤマトリカブトよりも、毒の少ない植物です。池の東側に多くはえていて、葉や茎にトゲがあり、このトゲに毒があります。うっかりさわると強い痛みがあり、いつまでもなおりません。

漢名（かんめい）は「蕁麻（じんま）」と呼び、蕁麻疹（じんましん）はここからつけられた病名だとも、いわれています。

表紙のことば

第61回全国高校野球選手権大会、第７日目の８月14日第２試合、地元富士高チームは、長い間の夢だった甲子園へ初出場し、古豪高知高と対戦。

９回裏３－３の同点に追いつかれ延長15回、延々３時間半にわたる熱戦の末、川村投手の力投も及ばず、４－３で惜しくも敗れました。

この日、地元からはバス150台、約8,000人にのぼる大応援団がくり出し、〝フレー、フレー富士高〟の声援がアルプス・スタンドにこだまし、応援合戦も最高潮に達しました。